



### 26 ブライダル業界で奮戦



道内面の目替わりコーナー「エンジョイ! ほっかいどこの水曜日はわたしの札幌プロジェクト」。競争が激しい札幌のブライダル業界に1人で飛び込んだ女性の奮戦ぶりを紹介。

ビジネスチャンスは転がっているようだが、企業も起業家も思いつきのアイデアだけでは通用しない。そんな中、一人の女性が競争の激しいブライダル業界に飛び込んだ。どこが札幌の「ツボ」なのか――。

ススキノの近くにパブル期に売り出された超高級マンションがある。不況のためか、隣接する建物にあるウェディングルームは空き部屋となり、そこに昨年10月、ブライダルブーケの専門会社「グリーンネックレス」のアトリエがオープンした。

「6月までの土日は予約でいっぱい。10月の予約まであります」。代表のサカザキリョウさん(30)はいう。名前は本名の一部を交え、デザイナー名としてカタカナ表記にした。

札幌は離婚が多いマチとして知られる。厚生労働省の調査だと、02年度の離婚率は13大都市で大阪に次ぐ全国2位。必然的にサカザキさんのアトリエにも、2度目の花嫁がときどき訪ねてくる。

「2度目の方はしっかりされていますよ。要領がわからず、勧められるままに挙げた式の経験が生かされている感じ。経済観念も違

## ブライダルブーケ 祝福の手作り花束

わたしの  
札幌プロジェクト

いますね」  
初婚、再婚に限らず、自分らしい、オリジナルの結婚式をあげたいと思う花嫁は増えている。「そこが私の入り込める『すき間』なんです」

門店ですから、綿密な打ち合わせをします。みんな真剣。ペアで来る方もいますが、そういう場合は花嫁さんの方が熱心かな」

会社のホームページ(H P)には、これまで手がけた140種類のブーケのうち50種類ほどを掲載している。同じものは希望があっても作らない。セールスポイントは「あなただけの、あなたらしいブーケ」。だから花嫁の思い入れは深い。ブーケを渡した途端、泣いてしまう人もいるという。

ブーケもいろいろ。花嫁が持つブーケ、トスするブーケ、リストブーケ……。値段は平均2万5千円。業界の「価格破壊」をしているわけではない。高価なバラを使えば6万円になることもある。「ただうちは専

式の直前に自らが配達する。式場にはたいがい契約している花屋さんがない。「アナタ、誰?」といふか、こちらには花嫁に直接頼まれた強みがある。笑顔と根性が武器の「花ゲリラ」と

### オリジナル志向増加に活路

みた。  
札幌生まれで慶女子大卒。日用雑貨の卸売社の営業職で3年働いた。24歳で結婚し、そのときフリーの生花デザイナーに頼んで作ってもらったブーケに感激した。教室に通って技術を学び、カラーコーディネーターの資格もとり、まずフリーで始めた。

やっぱり初期投資は必要だ。検索しやすいHPを作った。ウェディングファッションショーのモデルにブーケを無料で提供し、人脈も築いてきた。今年になって大手結婚情報誌に広告を出した。

「専門誌で読みました。が、札幌は全国的にみても



花嫁と必ず打ち合わせをしてから、そのイメージに合わせてブーケ作りをするサカザキリョウさん。札幌市中央区のグリーンネックレスで、撮影・野口隆史

花屋さんの競争が多いマチだそう。でも、いままでのやり方だけでは難しい時代だからこそ、チャンスはあると思っています」

ブーケは式の直前に作るので金・土曜は忙しい。平日は花嫁たちとの打ち合わせ、自らが開く週2回のフラワーデザイン教室もある。

プロの生花デザイナーを希望する女性の指導もする。自分より年齢が上の女性もいる。1日16時間労働の日もあり、来月から常勤のアルバイトの女性を雇うことにした。

アイルランドのロックバンド「U2」を聴きながら、バラがメインのブーケを作るサカザキさん。成功の第一歩は有限会社化で、年内達成を目標に掲げる。

「いろいろな人の縁とアドバイスを生かして成長していく。そう、私、わらわら長者になりたい」

(報道部・村井重俊)

会社 グリーンネックレス  
所在地 札幌市中央区南3条西8丁目  
代表者 サカザキリョウ  
連絡先 ☎011-281-8717  
H P www.green-n.com